

### 生きるⅢ

「生命(いのち)・心を支えるもの」

今回の米国の実体経済の伴わない金融危機を端を発した世界経済の混乱、不況。人間が都合良いように作り出した社会システムの破綻からは、事ある毎に同じ教訓を得ます。

その最中に誕生したオバマ米大統領。彼の誠実、堅実な人柄、そして未来を見据えた政策の就任演説には人種や国境を越え感動し共感しました。今の米国と彼の経歴を見る限り出るべくして出てきた人だと頷けます。

さて、今の日本を見ますと、世界でも有



『夢の塔』

数のお金持ちで、物が溢れています。それでも豊かに思えない現状があります。戦後の日本は皆が戦争の悲惨さを体験し、貧しくとも生きていられる事に満足し、ささやかな夢や希望を抱き、生き延びる為

に助け合い必死で働いて来ました。今、私達は豊かな生活に慣れてしまい、欲に切りがありません。世界に目をやればその日の食事もできないほど飢え、病気になることも治療を受けられず亡くなってゆく人達が沢山います。

知的生命にとって豊かな文明や文化はとても大切な要素ですが、お金の使い方や目的を誤ると、人の心は慢心し、荒(すさ)み、社会は乱れます。

衣食住が足りていても生きる目的、夢や希望がないと、生きる気力が湧いてこなかったり、目先のつまらない欲に振り回されて悩んだりすることは誰もが経験したことだと思えます。

しっかりと宇宙・自然観、人生観、生きる目的、夢や希望など、人格の基・核をつくるこれらのものは、人の歩みを根底から支え、その人の人生を大きく左右するほど重要な役割を果たします。常にこういうものを求めることで、少くも貧しくとも、いろいろな困難に遭っても一生懸命生きられるものです。不慮の人間形成がどれ程大切か痛感する今日この頃です。

作者：小池誠 (こいけ・まこと)

1957年長野県生まれ。18歳のとき骨肉腫になり左足大腿部より切断。20歳で左肺に、28歳で右肺に転移し摘出手術をする。闘病生活後、アート、デザイン、エッセイ執筆等始める。87年第9回ケニア画廊新人展(特別賞受賞)。90年紀伊国屋画廊で個展・96年にも開催、第4回ジェック「ま・な・び・す・と大賞」(優秀賞受賞)。91年第18回日仏現代美術展(テレビ信州賞受賞)。第3回障害者アートバンク大賞(大賞受賞)。93年「善行者」として長野県知事表彰。99年「伝言一刻を超える それぞれの表現」駒ヶ根高原美術館、2007年第7回国際アビリンピック「ポスターデザイン部門」日本代表として出場(特別賞受賞)、「成績優秀技能者」として長野県知事表彰。その他、公募展、グループ展、個展、版画、本・雑誌の表紙使用、エッセイ執筆、受賞等多数。パブリックコレクション：駒ヶ根高原美術館、喬木村歴史民俗資料館ほか。http://mkoike.serio.jp



心の  
アート  
小池誠